

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 星の家 1階	評価実施年月日	平成21年2月24日
評価実施構成員氏名	1階(彦星) 多喜真弓 ・高橋利枝 ・鳴海幸乃 ・ 斉藤ますみ ・ 岡川理恵 ・吉本正子 ・ 熊谷しず子		
記録者氏名	松井 郁子	記録年月日	平成21年2月27日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>人格の尊重・楽しみある生活空間作り・開かれた地域に愛され、信頼される、事業所独自の理念を作りあげている。</p>	○	<p>理念の基ずき、地域の方々に愛され信頼される、グループホームを目指し、今後も取り組んでいきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>各フロアー、スタッフルーム、掲示しており、理念を共有しているも、日々の中で特別話し合った事は少なく取り組みに欠けている。</p>	○	<p>人格の尊重・楽しみのある空間作りは常に努力し続けている。今後は地域との関わりにホーム全体で取り組んでいきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>家族会や運営推進会議にて、お話をさせて頂いており、町内会へ入会し、理解してもらえる様、取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近くの公園等、散歩に出かけた際は気軽に挨拶し、子供会の資源回収にホームの玄関前まで子供達が回収に来てくれる。</p>	○	<p>挨拶だけではなく、いつでもホームに立ち寄って頂ける様声をかけていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会入会し、会報や回覧板を通じて、花壇作り、清掃等へも参加し交流に努めている。又、子供110番の家にもなっている。近くの保育園児が遊びにきて、歌や、お遊戯を披露してくれたりと交流がある。</p>	○	<p>花壇作りや清掃時間帯が早い事等から、入居者様との参加が出来ておらず、今後、時間帯、スタッフの状況をみて多数の入居者様にも参加できる様、又、町内会の行事等にも参加し交流を深めていきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の民生委員の方、町内の役員の方々と、近隣の独居生活の方、高齢者世帯の方々の実情に対して出来るだけ協力していきたいと話合いを、前管理者が実施されていた。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>外部評価、自己評価の実施について全スタッフに理解されるような取り組みが出来ておらず、具体的な改善策についても全職員で話合う場を持っていなかったが、運営者、全管理者が地域との交流につき取組まれ少しずつではあるが、交流は増えてきたと思われる。</p>	○	<p>意義についてしっかり話し、今後改善策についても、全体会議を持ち取り組んでいきたい。(今回、自己評価表、全スタッフに配布し記入してもらい、管理者が集約し作成を行った)</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>昨年は開催回数が少なく、会議後の話し合いの場は設けていなかった。</p>	○	<p>全職員が運営推進会議の意義を理解し、会議後の報告や話し合いを持ち、サービス向上へ繋げられる様取り組んでいきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議以外にも、電話や市役所、区役所に足を運び、様々な中で活かしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>前管理者、介護支援専門員は研修等で学ぶ機会があり、制度を利用されている入居者様もおり支援しているが、全職員への周知はされていない。</p>	○	<p>今後、勉強会を開催し全職員へ周知出来る様取り組んでいきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待へつながるケアをしていないか、職員一人一人が自覚を持ち防止に努めている。</p>	○	<p>上記同様、勉強会を持ち虐待防止の徹底に取り組んでいきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>不安や疑問点について、時間をかけ話し合い、十分な説明の上、理解・納得をいただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、不満、苦情を訴えられる関係作りをしており、それらを反映している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御家族が来訪時には必ず近況報告、往診や受診後の記録説明、見て頂き確認のサインを頂いている。緊急性の高い事柄は電話にて報告している。金銭管理に関しては、事務所にて、お預かりノート確認サイン頂いている。職員の異動については報告していない事が多い。	○	今後、ホーム便り等を作成し、暮らしぶりやエピソード、行事予定、職員の異動の報告が出来る様取り組んでいきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族様からの意見等は来訪時や行事参加時コミュニケーションを図り話やすい環境作りに努め、家族会の開催も行い、ご意見箱も設置している。第三者機関へ電話相談出来る様、相談窓口も設置している。	○	家族会、開催後の報告が全職員に伝わっておらず、今後、記録の回覧や、会議の際、周知する様取り組んでいきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング開催時、スタッフの意見を聞き入れる場を設け、反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	運営者も含め、ホーム全体で状況を把握、調整し確保出来る様にしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を最小限にしたいが、体調不良や家庭の事情により退職された場合は、入居者様、個々に合わせた対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修を受ける機会が確保され、進められている。</p>	○	<p>どのような内容の研修に参加されているのか、全職員に知らされていない事が多く、研修報告書作成し職員間での共有化を図れる様取り組みたい。又、ホーム内での研修や勉強会の機会も少ない為、開催機会を増やしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>前管理者は、管理者会議に参加され他の事業所の管理者と連絡を取り合い、情報交換・コミュニケーションを取り合い、サービスの向上に取り組まれていた。</p>	○	<p>今後も会議への参加を継続し交流を図りながら、サービス向上へ努めていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>毎日スタッフと会話する時間を持ち、精神面・体調面も気配りされている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>一人一人の状況を把握し、励ましの声をかけられ努められている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>御家族からの相談が第1となる事が殆どであるが、必ず御本人に、お会いし不安や求められている事を聴き受け止めている。自分の思いを訴えられない方に関しては、表情や口癖等から読みとる努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>電話、来訪、訪問し、時間をかけ聞き取り、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	しっかりと相談内容を把握し見極めながら、他のサービスの説明をさせて頂き対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には御本人、御家族の都合に合わせて、ホーム内見学、雰囲気を感じとって頂く。場合によっては自宅訪問させて頂き生活空間を大きく崩さないよう、工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	御家族から得た情報を参考にし、極力今までとは変わらない環境作りに努め、日々の食事作りにも参加していただき、職員にアドバイスを下さる、他、芋の皮むき、もやしのヒゲ取り等、下準備も積極的に参加して下さる。逆に私達が学ぶ機会も多く、良い関係作りを築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や行事への参加等で、御本人に対する思いや情報を得、一緒に御本人を支えていく関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者様と御家族と一緒に楽しめる行事を取り入れたり、この入居者様に今、何が必要なかを御家族との会話の中から判断し支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	可能な限り関係が維持されるよう働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様の性格を把握し、共同空間、各居室を有効活用しながら、気の合った方や話の合う方との関係作りをサポートしている。又、行事を通して皆さんで楽しんだり、感動する事で関わりを深める努力をしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後、継続的な関わりが必要であった利用者や御家族は少ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々に生活習慣の違いがあったり、のんびりした方、せっかちな方、静かな所を好む方といらっしゃる中で、出来る限り一人一人の思いや意向を大切にしながら取り入れている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	独居生活をされていた方、御家族と疎遠となられた方の、経過の把握が難しい部分があるが、御本人との会話や言動の中で把握できる様努力している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々のケース記録、ケアプラン実施記録を元に申し送り、ミーティング、日々の洞察から、職員は把握する様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御本人の思いは、毎日の会話や言動、表情から読み取り、御家族の意見は面会時、必要に応じて電話で話しをしている。入居時の計画作成時は関係者より情報提供により反映し、スタッフ間でのミーティングの中で意見交換し作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	かかりつけ医の往診(月2回)や協力病院での受診、訪問歯科も利用し、適切な医療をうけられるよう支援している。かかりつけ医は24時間対応可能となっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけの脳神経外科受診、MRIや長谷川式簡易知能評価スケールを受け、進行の状態等適切に支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を確保し、相談しながら健康管理、医療活用の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、必ず病院へ行き、御家族も交え情報交換、相談しながら早期退院に向け取り組んでいる。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	御家族から、御本人の希望を前もって聴いていただき、ホーム側・主治医・御家族全員で立会いの上状況に対処出来る様に方針を決めている。	○	重度化した場合における対応に関わる指針があり、今後も、御本人、御家族との話し合いを持ちながら、取り組んでいきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医との連携を図りながら、ホームで出来る事は取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	御家族や本人に関わるケア関係者間で、話し合いや情報交換は十分になされ、ダメージ防止に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	スタッフは言葉かけや対応に常に気を配り、個人情報が必要以上に出さず、申し送り時もイニシャル呼びや声のトーンに気をつけている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々に合わせた説明の仕方、自己決定を基本とし支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを大切に、その日の希望を極力聞き入れているが、状況に応じ対応出来ない時もある。	○	入浴日や体調不良者の急な通院介助が入ってしまうと、スタッフの人数確保が出来ない時間帯があり、外出希望者の対応が出来なくなってしまう為今後の課題である。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理美容を利用される方、御家族と一緒に行きつけの美容室に行かれる方、御家族がカットして下さる方等、個々に応じた身だしなみ、おしゃれの支援をしている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器は殆ど陶器、色形なども様々で盛り付けの工夫等入居者様と話ながら楽しく食事作り、片づけ等している。重い陶器が持てない方は軽くて持ちやすい物に変える様工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物に行き好きなお菓子を買って、15時おやつ時に皆さんと食べられたり、飲み物は個々に合わせて提供している。お酒提供は体調面や服薬内容により主治医と相談の上提供する機会を作っている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々に排泄チェック表を活用しており、尿意や便意が訴えられない方は表情やしぐさを読み取り誘導している。失敗を軽減し気持ちよく排泄できる様支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	月毎の行事予定を組み、週3回位の入浴を決めさせて頂いているが、入居者様が明るい雰囲気の中で心身リラックスしていただけるよう楽しい話題提供や個々に合わせた温度設定、皮膚状態に合わせた石鹸やシャンプーの使用等配慮している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々に合わせた時間帯で、日中でも居間にて眠そうにされている方には声をかけ、自室で休んでいただいたり、就寝時間も個別対応の支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	月2回習字を行っている事により向上心を高めたり百人一首を行い言語能力低下を防ぐ事等、個々に応じた楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お預かり金のお小遣いを所持し、近くのスーパーや本屋、コンビニ等に出かけ、御本人に精算して頂く様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p> <p>冬場は天候にもよ、外に出られる機会が少ないが、春、夏、秋、季節に応じホーム前にパラソルを立て日光浴をしたり、ホーム裏への洗濯物干し、散歩や買い物、出来るだけ外出機会を多くしている。</p>	○	今後も外に出られる機会を多くし支援していきたい。
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p> <p>各月事に担当者を決め、入居者様の希望も取り入れながら、季節に応じた場所へ出かけたり、御家族にも声をかけ参加して頂ける様、支援している。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p> <p>電話は本人より希望がある時には、午前8時頃より午後7時頃までスタッフ介助でかける事が出来、御家族からも電話あり話される。又、手紙も書かれる方は御本人と一緒にポストへ投函し支援している。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>御家族の来訪は多く、居間にて他入居者様とも気軽におやつを召しあがりながら、談話される方、居室でゆっくり過ごされる方と気軽に来訪されている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>身体拘束をしないケアを行っているが、ベットより転落防止の為のベット柵使用や、窓より身を乗り出す方の転落防止の為の窓へのストッパー設置については、承諾書作成、御家族へ説明し同意を頂いている。</p>	○	全職員が禁止の具体的な行為について正しく理解されているか疑問点であり、今後、勉強会を開き取り組んでいきたい。
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>鍵をかけない事の弊害を理解し、夜間以外は施錠していない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居間にて過ごす方が多く、居室へ戻っても、何処で何時に何をしているかプライバシーに配慮しながら、様子を把握し見守っている。又夜間は2時間おきの巡回、その日の状態に合わせて安全確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	各居室の置物、家具等、御本人が混乱や不穏にならない程度に御家族と話し合いながら危険防止に努めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時に備えてのマニュアルの設置、ヒヤリ・ハット、事故報告書作成、活用し取り組んではいるが、全スタッフで知識を学ぶ機会はなく、対応策もしっかり話しあう場を設けていない。	○	事故後の対応策をスタッフ間で話し合う場をしっかりと持ち、勉強をしながら今後取り組んでいきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。	○	救命救急の講習を多くのスタッフに受けてもらい、ホーム内でも定期的な勉強会を開催していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議にて、話し合いを持ち、今年の防災の日に訓練を実施する予定である。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	御本人の状態に合わせて、転倒の危険や内服薬の変更前等の起こり得るリスクについて説明し話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック、入浴時の全身確認、毎日の観察をケース記録に残し、いつもと違う行動や顔色の異変に気づける様、情報を共有し、看護師、主治医へ報告、指示を受け、対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ケースファイルに処方箋を保管し、服薬変更や症状の変化等、医療ノート、連絡ノートで確認するようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日の排便チェック表や水分摂取量を確認し、副食に食物繊維の多い食材を取り入れたり、個々に合わせた運動を取りいれている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、就寝前の義歯洗浄剤への浸けおき等、各入居者様に合わせ、声かけや介助を行い口腔ケアの支援をしている。又、歯科医の往診で定期健診を受けている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスやカロリーを考慮し、個々に合った分量、食べやすい大きさ等、工夫し提供している。水分量は毎日チェックし、好まれる種類も物を取り入れ水分調節を行っている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は毎年行い、定期的な血液検査、手洗い後の消毒、外出後のうがい、手洗いは徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布きん、まな板等は毎日消毒し、台所掃除も毎日行い清潔を保っている。又、台所への入室は履物を換える様にし、調理時はエプロンも換えている。食材は2日分で食べられる量を購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには、花を置く、冬季クリスマスにはイルミネーション等、季節を感じてもらえる様工夫している。玄関は足元の安全を図る為、十分な広さがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には季節や行事に合わせた飾り付けを行い、四季を感じられるよう工夫している。食事中はTVを消し音楽を低音で流し、ゆっくりとした中で食べて頂く様配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にはソファが置かれ、TVを観られたり、傾眠されたり、過ごされている。又、気の合った入居者様同士で1つのテーブルに集まり談笑されたりしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、御家族にはなるべく使い慣れた物、見慣れた物をと話しているが、物の大きさや量等、外泊時の為と新しい物を購入される御家族もいらっしゃる。極力、馴染みのある物を置いていただき、居心地よく過ごせる様にしている。	○	認知症の進行に伴い、本当に居心地が良いのか、物の配置はどうなのか、個々に応じ関わりの中で見出しながら、取組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各フロアー、居室の換気、温度調節はこまめに行っている。湿度対策とし、洗濯物や濡れたバスタオルを干し実施している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>廊下、階段への手摺の設置、個々の身体機能に合わせ、歩行器や車椅子を使用し、障害とならない様な物の配置を考え安全対策には心がけている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>出来ている事、出来なくなってきている事を見極め、持っている力を引き出せるような場面作りを行い、自立支援に努めている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ホーム周りに小さい畑だが野菜作り育て収穫している。夏場は玄関にベンチ設置し日光浴や玄関前にて焼肉等の行事も行っている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) *私達スタッフはケアをする意識ではなく生活者と考え、入居者様との信頼関係を大切に持っている力を引き出し、出来ていることを継続できる様支援し、アットホームな雰囲気の中で楽しくのびのびと暮らして頂ける様日々努力している。